



明治13年の迅速図に社寺と遺跡を書き入れたもの

「貝塚」の名がついた村

は、江戸時代には、今の千葉県下でいえば、千葉市を始め、小見川町、八日市場市、九十九里町、大網白里町、流山市、それに本市に属する地域にありました。これらの中には、後に「上」や「下」の字をつけたところもあります。現在でも町名や字名として存続しています。また、船橋市には、前貝塚村と後貝塚（うしろかいづか）村があって、後貝塚は旭町に、前貝塚はそのまま町名として現存しています。これらの貝塚村の中で、行政的に最も発展したのは、大阪府の貝塚市ではないでしょうか。

さて、貝塚の名称は、その多くが縄文時代の人たちの残した貝塚から起こっています。本市の下貝塚は、明治十二年に「下貝塚村」と改称されたもので、始め

## 曾谷貝塚の下手？

### 下 貝 塚

は貝塚村でした。この貝塚の名称は、村の鎮守を貝塚の上にお祭りしたところから付けられたものと思われ

ます。下貝塚の地域は、曾谷台地の東側に深く入り込んだ谷津から大柏川に向かって広がった地域ですが、集落は谷津の南側斜面につくられました。そして、その一

番奥の台地上からやや傾斜したところに残されていた貝塚上に春日神社が建てられたのです。また、本住寺は、日蓮宗法華経寺の末寺として正和元年（一三一三）円殊院日唱上人の開創によるもので、貝塚村住民の菩提寺となりました。

貝塚村は、明治十二年三月に下貝塚村と改称し、同二十二年、町村制の施行で国分、須和田、宮久保、稲越の各村と合併、五常村となり、翌二十三年国分村の大字となりました。

下貝塚の名称は、台地に隣接している庚塚（かのえづか）、さらにその西にある大貝塚で史跡に指定されている曾谷貝塚などの下手というところからつけたものか、はっきりしたことは分かりません。下貝塚は純農村地域で、明治初期にはすでに梨栽培が盛んになりましたが、昭和四十三年十月、市川・松戸有料道路の第一期工事として中山競馬場高塚入口間二・九\*が完成し、その一部が下貝塚の東部を縦貫しました。また、五十四年四月には、周辺人口の急増による生徒数の増加に伴い、下貝塚中学校が開校しました。五十六年二月、住居表示の実施で、北方町四丁目と大野町一丁目の一部を含めて、下貝塚一〜三丁目となりました。次回は「大野町」を予定しています。

（社会教育指導員

綿貫喜郎）